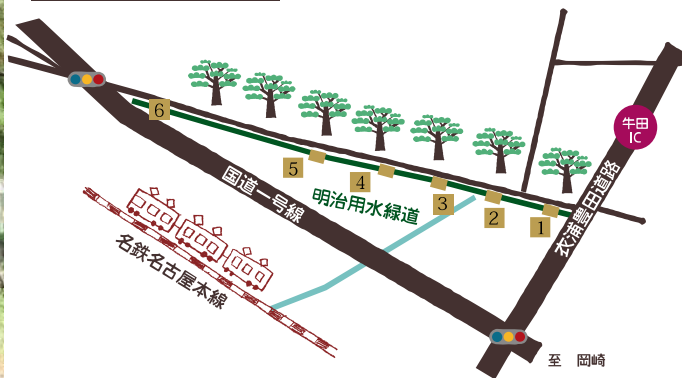




設置箇所図



ENDO Toru

1

遠藤 透

「旅の途中」

知立は「池鯉鮒」と呼ばれ、東海道三十九番目の宿場町である。旅人は、この町で疲れた体と心を癒し、再び旅立っただろう。東海道松並木は、昔の旅人を彷彿させる場所である。また旅をしよう。



NAGAI Hanako

2

永井 はな子

「かきつばた姫」

伊勢物語に想いを馳せながら古代から凛として咲き誇るかきつばたの精神性を、昔ながらの宿場町から近代的な町へと移り変わっていく知立と重ね合わせて、かきつばたが美しく成長していく様子を表現しました。



HAYAKAWA Takashi

3

早川 高師

「ようこそ、ようこそ」

おみやげを持った猫が船に乗って池鯉鮒にやってきた。鯉や鮒や池鯉鮒の人々に「こんにちは」。魚たちも歓迎し「ようこそ、ようこそ」。

池を船で表現し、このような様々をおとぎ話ふうに制作しました。



UNO Kazuhiro

4

宇納 一公

「片目の鯉」

池鯉鮒のむかし話に、両親が娘さんの目が治るように願いをかけた「片目の鯉」というお話があります。祈りの造形として、この作品をいつまでも愛して下さることを願っています。



KITOH Masanobu

5

鬼頭 正信

「知立の昔話より」

知立の昔話には様々な動物たちが登場します。カキツバタの花びらに見立てた3面に、その中から選んだ3匹を表しました。

さて、どの話に出てくるでしょう。



YAMASHITA Kiyoshi

6

山下 清

「猿渡川」

昔、橋のない川で親猿が仲の悪い3兄弟をどうにかして向こう岸に渡そうと考え、苦勞の末に、3兄弟が争う事なく川を渡りました。

困難に立ち向かい、考えて、乗り越えていく様子にいたく感動された弘法様はその川を、猿渡川と名付けました。